



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年10月23日 第841号「週刊五十嵐レポート」

成功の反対は？

30年前、札幌でリース会社に勤務(転勤で赴任)していたとき、同業他社も同じく転勤族で独身のため、プライベートでは頻りに交遊していた。

最近、東京で札幌時代のみなさんと飲み会をした。多くの方が60歳を越え、定年を迎えていた。嘱託で65歳まで勤務し、65歳から年金生活。65歳までなんとか耐えていく。

休日にヨガを習っている人がいる。ヨガの先生が生徒を集めたら、教室を開くといって、生徒を集めて、教室の運営をボランティアで5年間やっている。「それ、本格的にやったら、面白いんじゃない。ビジネスになるかも」と言ったら、「いや、無理。できない」という返事。「ヨガのインストラクターになる気はないの」と聞くと、「無理。できない」と答える。

私は、20年前にリース会社を辞め、コンサル会社に勤務後、11年前に独立起業。リース会社の同僚(サラリーマン)とは考え方の違う人間になっていたことに気づいた。

「成功の反対は？」「失敗！？」。成功とは、目的を達成すること。事業などを成し遂げること。では失敗とは、やってみたが、うまくいかないこと。し損なうこと。(広辞苑より)最初からうまくいくことはない。失敗を続けて、成功に近づく。実は成功の反対は、「何もしないこと」ではないか。「不作為」。不作為とは、あえて積極的な行動をしないこと。

ドラッカーの言葉を思い出した。「情報を知識に転換し、その知識を行動に具体化することこそ、マネジメントの役割」。「経済活動の本質は現在の資源を将来の期待のために使うこと、すなわち不確実性とリスクにあるからである。「企業家精神とは気質ではなく行動である。その基礎となるものは、勘ではなく、原理であり、方法である」。

行動を起こすとリスクは伴う。結果が見えない、不確実性である。それでも成功を信じ、原理原則に基づいて前に進む。これが経営者(企業家)。

ちょっと
気になる出来事

日経新聞に「AI時代のサムライ業」(9月25日、10月2日、10月9日)という記事。人工知能(AI)の利用が広がるにつれ、サムライ業(士業)が「定型的な独占業務はAIに取って代わられかねない」と危機感を強めている。野村総合研究所は「10~20年後に、日本の労働人口の約49%が技術的に代替可能」。国内の601業種についてAIが取って代わられる可能性を分析した。

行政書士93.1%、税理士92.5%、公認会計士85.9%、司法書士78.0%、弁護士1.4%など、難関とされるサムライ業でも確率が軒並み高くなっている。「税務署類の作成、税務代理、税務相談という税理士の主要業務は、すべてAIに取って代わられる」

各サムライ業に属する人々が「人間にしかできない仕事」としてコンサルを志向しはじめた。

私が主催している「戦略社長塾」という経営者向けの勉強会も「銀座校」「五反田校」「豊岡校」と3組の税理士事務所が行っている。

すでに未来は顕在化している。



一口メモ
知識

「すでに起こった未来」を探せ

社会的、経済的、文化的なできごとと、そのもたらす影響との間には、タイムラグがある。出生率の急増や急減は、15年後、20年後には、労働人口の影響をもたらす。変化はすでに起こっている。戦争や飢饉や疫病の大流行でもないかぎり、その結果は必ず出てくる。

すでに起こった未来は必ず機会をもたらす。それらのものは、潜在的な機会である。このすでに起こった未来は、企業の内部ではなく外部にある。社会、知識、文化、産業、経済構造における変化である。

すでに発生した変化がもたらす影響を予期して、資源を投じることには、不確実性とリスクが伴う。だがそのリスクは限られている。影響がいつ現れるかを正確に知ることはできないが、影響が現れることについては確信がもてる。

基本的な知識の登場が役に立つようになるには、10年ないし、15年かかる。

P.F.ドラッカー 「チェンジ・リーダーの条件」より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日 午前10時~12時

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週水曜日 午前10時~12時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

